

# 日刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (22) 7207 番

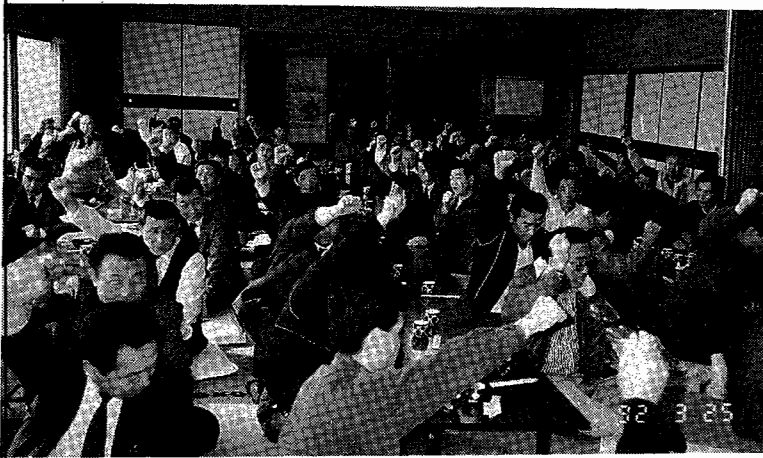
92.3.31

No. 3565

326 増徴  
国労組合員共々

## 起死回生の 総務修検の 奮闘

### ス破リ・JR総連革マル！大打撃



**張幕**  
感無量の。  
ちびちびのまじり  
たえぬスト！

三月二十五日、朝十時半には結集場所の大広間は一〇〇名をこえる組合員でギッシリである。  
幕張支部は、全組合員が決起・結集した。ただちに白井副支部長の司会で集会がはじまる。白井さんも一人一人の目の輝きを前に少し興奮ぎみである。そうした中で、石幡支部長が組合員の労をねぎらったあと力をこめて「ひさびさのストを完全に打ち抜き、こうして一同に結集している。感無量という気持ちです。ここまで皆で前進してきたということです。確信を

ふかめ共ががんばろう」と決意を述べ、全員が拍手で意義を確認していた。  
そのあと、布施副委員長が情勢展望等を提起。その間にも青年部は車「管理」、会場整理に奮闘していた。  
昼食も百名が一緒にとるといふことでテナヤワンヤである。しかし、そこは闘う労働者の自発性が十分発揮され瞬時にテーブルには食事が見事に並べられ、和気合いの昼食である。「交検」が運び、機動班がかたづけなど検修職場ならではの「光景」である。食事の間、滝口本部執行委員の挨拶と陣中見舞に駆け付けてくれた千葉市議鈴木俊輔氏から連帯の挨拶をうけた。

このように、三・二五ストはかつてない高揚と団結強化をかちとり成功裡に打ち抜かれたのである。この日、国労分会も全員がストに入、JR最大の基地・幕張電車区は終日組合員の「制圧」下におかれた。

幕張支部は、この力をさらに固め今後たまたかかってゆくことを確認し終了した。

## 津田沼 乗務員と一体で 京葉支部の仲間と共に



三・二五ストを津田沼支部の検修・事務の仲間も全員が乗務員と一体となって敢然と打ち抜いた。朝十時ジャスト全員が堂々とスト突入を「宣言」、近場にある集会場に合流。そこには、乗務員と京葉支部の仲間が結集している。早速、合同で集会が開かれる。津田沼支部を代表し、山田支部長が挨拶、つづいて深見京葉支部長の決意表明である。両支部長とも、被解雇者・清算事業団の仲間の怒り、悔しさを全身で表し「国労内の一部指導部の裏切りを許さず仲間を取り戻すまで団結を固め頑張ろう」「JR総連内部から公然と革マルへの反発が高まっている。今日のストの力をJR総連解体に結びつけよう」と「激」が発し

そのあと、外山執行委員が約一時間にわたり情勢、任務方針を提起し、その後、それぞれからの決意表明が行われた。なかでも、石渡検修分科会会長は、「今後の攻撃の焦点が検修である。一人ひとりの自覚を高め一丸となつてはねかえしていこう」と力ずよい決意表明がおこなわれた。

その後、全体が、三・二五スト貫徹の意味をがっちり確認し、最後まで敢然とたたかいた。津田沼支部は、不当にも首を切られた仲間とともに勝利までがんばる、それが、労働者としての生きかたであることを改めて確認してきたところである。

前への。未来への。